

町医者だより

平成31年03月号

睡眠薬を巡る話題

今年の3月4日月曜日の夜、外来を早めに切り上げさせて頂いて市川市医師会の古い建物に向かいました。講演を聴くためでした。開始15分前に着いたのですが、すでに最後尾の席まで超満員でした。ベルソムラという睡眠薬に関する講演会ですが主催した製薬会社は自社製品に対する評価の現れだと思われたようです。私が参加したのはただ単に眠剤の処方制限がこの4月から厳格化されるため研修を受けるように医師会からファックスがあったからです。私自身以前から睡眠薬の売り方に疑問を持ってきました。

マイスリー、デパス、ハルシオンは薬物依存の代表格

マイスリーは作用時間が短く付き合いやすい薬とメーカーはさんざん宣伝してきましたが、本当にそうでしょうか。2011年に20歳台の若者にマイスリーだけを何ヶ月も処方していたことがあります。この患者さんは日中の眠気を訴え、血圧も高めで睡眠時無呼吸症候群を疑っていました。ある日以前勤めていた会社の健保組合から目を疑うような手紙が届いたのです。1ヶ月で数十カ所の医療機関から1000錠近いマイスリーを処方してもらい自殺する恐れがあるとの内容でした。慌てて自宅に電話するとお母様が出てマイスリー依存症で一度に5錠、10錠と飲んでいくという話でした。その方は退職前に大量の在庫を作りたかったようですが、その前から奇妙な行動を取っていました。午後外来開始前から廊下に座って開始を待っていました。受付を開始してもその患者さんの名前が受付リストに挙がりません。どうしたのか受付さんに聴くと、前回の受診日がいつか聞いて帰ったとのことでした。このような事が度々ありました。マイスリーは以前から30日処方制限薬で後から考えると複数の医療機関で処方してもらっていたためいつ処方してもらったか分からなくなったのだと思います。デパスも怖い薬です。開業する前から1週間に一度勤務していた大企業の診療所の先生から10年近く前に聞いた話です。受診した社員の方が肩こりか何かで長期間デパスを飲んでいて服薬をやめさせたら職場で錯乱状態になって雄叫びをあげていたとのこと。デパス依存症があって急にやめたことによる禁断症状です。ハルシオンもかなりなものです。老人介護施設で他の眠剤に変えようとする強い抵抗を受ける薬剤です。怒り出す方もいます。今回出席した講演会で精神科医が睡眠薬が依存すると話していましたが、精神科医の口から睡眠剤の安全性に対する懸念を聞いたのは初めてです。

マイスリーは問題児、ベルソムラは？

非ベンゾジアゼピン系といわれる薬のなかでもゾルピデム（マイスリー）、ゾピクロン（アモバン）、ザイピロン（日本未発売）はZ-ドラッグと呼ばれています。アメリカでのマイスリー服用による交通事故の増加や救急外来受診の急増が問題になっていることを私自身2015年に知りました。睡眠薬の服用で転倒・骨折のリスクが高いことは以前から知られていましたが、睡眠剤服用で短命になること（BMJ open 2012年）、アルツハイマー病のリスクが高くなること（BMJ 2014年）を患者さんに話してきましたが、日本の精神科医がそのような警告を発しているのを聞いたことがありません。先の講演会で精神科医がベルソムラは依存性がない新しい薬剤だとやたら強調していましたが、安全な睡眠剤など存在するはずがありません。事実、ベルソムラが全く効果がないどころか却ってイライラして精神的に不安定になる、悪夢を見る、翌日まで眠気が残る、頭痛が起きるなどの報告が増えてきています。

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器内科